



鷹野雅生 議会速報

GASHIN

Vol.16 2016.12

〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

この号の内容

【観光関連】

はじめに

- 1 はじめに
- 2-4 新しい観光スポット
- 5 背割堤
- 6 施設の利用・観光活性化
- 7 施設の利用・企画
- 8 政府交付金 質問と答弁
- 9 新しい観光スポット 答弁
- 10 新しい観光スポット 答弁 2
- 11 観光復興 再質問
- 12 観光復興 答弁
- 13 観光復興 要望

八幡みらいクラブの鷹野雅生です。

本年最後の議会で、質問の機会を賜りありがとうございます。
ことしも本市の観光への取り組みについて、新しい提案とあわせて質問させていただきます。

"GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと願っております。

新しい観光スポット

私が観光問題を重視するのは、ただ単に観光客を呼ぼうというのではなく、観光に取り組むことはまちづくりに直結するからです。

ご承知のとおり、ことしは多くの観光客が京都を訪れました。

ことしの秋は、紅葉が例年になくきれいだという評判が人を呼び、有名な神社仏閣は、曜日に関係なく観光客があふれている状況が続いていました。

もちろん、本市の石清水八幡宮の国宝昇格の効果もあったと思いますが、例年になく観光客が多かったと聞いています。11月末でしたか、京都駅で観光地に向かうバス停に、長い行列が何本もできているのを見て、驚いたことがありました。

インバウンドも2,000万人を超えました。有名観光地を訪れたインバウンドを何とかして地方へ呼び寄せようという動きが活発になってきています。

自治体が特色を生かして、特色が少ないなら、新しいものをつくり出している例が全国各地で見られます。

一例を挙げると、四国香川県があえて離島を使い国際芸術祭として観光客を呼び寄せ、評判となっていることは、前回私が質問をさせていただいた折にもふれました。

京都府内でも各地で見られます。北部は海の京都をキャッチフレーズにして、海と魚で魅力で観光客にアピールしています。

山間部の丹波は、森の京都で遊ぼうと、さまざまなイベントを展開しています。

南部はお茶があります。宇治市はもとより、宇治田原町、和束町も力を入れています。

今、自治体が観光に注目し、知恵をアイデアを競い合うのは、ただ観光客を呼び込むことだけが目的ではなく、観光を通して地方をアピールし、住みやすいまち、若者が都会でなくてもいい、地方でも十分楽しく暮らせて、子育てができると思ってくれたら、結果として、人口減少を食い止める最大の手だてだと、地方自治体が考えていることに注目したいと思います。

幸い八幡市は観光資源に恵まれています。国宝に昇格した石清水八幡宮を初め、新たな観光スポットが誕生します。

さらにもう一つ、観光スポットにしたい、観光スポットに十分値するところがあると考えています。

行政の力で、ぜひとも昇格させていただきたい。

そのことのために、何点か質問させていただきます。

新しい観光スポット

まず最初に、淀川河川公園内にある国土交通省の交流施設の名称はさくらであい館と決定され、来年3月25日にオープンいたします。

私の前回の質問のときにも、市としてさくらであい館とどのように連携を図っていかれるのか、あわせて将来の活用についてお伺いしました。

さくらであい館は、駅前の活性化にもつながってまいります。それ以上に、八幡市の観光を推進していく上で、大切な場所となってくると考えます。何と申しましても、淀川三川合流地域であり、豊かな自然と雄大な景観に恵まれています。しかも、本市を初め向日市、大山崎町、大阪、京都の複数の自治体との連携ができる立地条件にあるということです。

さらに、名神高速道路、京都第二外環状道路など、広域基幹交通とつながり合っているということです。国土交通省が力を入れています。先日、国土交通省の担当者に話を伺ってまいりました。

後ほど報告とあわせて、質問いたします。

さくらであい館の展望塔は25メートルありますから、展望塔に上ると男山、背割堤も見渡せて、景観は申し分ありません。八幡市にとって、さらには京都府にとって、新しい観光スポットになってまいります。駅前整備とのかかわりも含め、さくらであい館ができることでどのような効果があると考えておられるのか。活用の可能性も含めてお伺いいたしました。

これに対する答弁として市長からは、本市の観光を取り巻く環境は、流れ橋と、はま茶が日本遺産に認定され石清水八幡宮が国宝となり、さらに三川合流地域の展望塔を併設するサービスセンター、つまりさくらであい館の建設で、まさに追い風が吹いていると考えておられること、この状況を最大のチャンスと捉えて、観光振興、PRを積極的に推し進め、観光客数及び、観光消費額の増加を図ってまいりたいとのご答弁をいただきました。

ここからは、新しい視点を加えて、私の提案を申し述べ、質問させていただきます。

八幡市の表玄関である京阪八幡市駅を出て、東へ歩き、踏切を渡って、市道科手土井線の改良工事が目に入ってきます。来年3月に完成します。美しく広がる道路を上り、府道京都守口線の交差点を渡って、御幸橋に立ったときの何とも言えない爽快感に包まれます。

実にさわやかです。この気分、この爽快感は、前方に広がる雄大な眺めがもたらしてくれることに気づかせてくれます。

前方左に背割堤が長く伸びています。御幸橋からはるか北に愛宕山、右手奥に比叡山がそびえています。橋の両サイドの歩道は広いですから、大勢の人がゆっくり歩いても大丈夫です。

橋の中ほどで木津川を見下ろしてみてください。高所恐怖症の人でなくても、足がすくみます。

ほかでは見られない、まさに絶景です。

駅から背割堤へのプロムナード、新しい観光スポットとして売り出す値打ちが十分あります。

将来、このプロムナードを南へ一直線、石清水八幡宮の一の鳥居まで伸ばして、門前町風に整備していけば、八幡市駅前の光景が一変いたします。

八幡市駅前が、おのずと門前町になっていくと思います。

新しい観光スポット

さて、八幡市駅からゆっくり歩いて御幸橋に立ちます。

前方に見える、さくらであい館、25メートルはほどよい高さです。

八幡市の新しいランドマークです。展望台に上がり、見渡す四方八方は、いかばかり雄大なことか。

イメージが膨らんでくるのは、私だけではないと思います。

桜シーズンには、背割堤へ来る人の駐車場の心配ばかりしておりましたが、視点を変えて、こんな
宣伝文句を考えてみました。聞いてください。

背割堤には電車でいらっしやい。ゆっくり歩いて来ることをお勧めします。御幸橋に立つだけで感動が
押し寄せてまいります。京都市内では見ることのできない雄大な景色があなたをお迎えします。

ざっとこんな感じですが、いかがでしょうか。

さくらであい館ができることで、御幸橋の眺めが一層よくなったと思います。

八幡市の観光スポットとして、石清水八幡宮などとともに、出会いの御幸橋として、新しい観光スポットに
加える価値は十分あると思います。

質問

① 新しい観光スポットについて。

⇒御幸橋は、駅から背割堤へ導く橋ではありますが、それ以上に八幡市の誇るべき観光スポット
に昇格させていただき、それにふさわしい広報活動を展開すれば、八幡市に新しい魅力が加わ
り、八幡市のパワーになると考えていますが、どのようにお考えでしょうか？。

御幸橋一带は、昼間は昼間の雰囲気があり、できれば早起きをして早朝に駅から歩いてみてくださ
い。三川合流地点ですから、木津川、宇治川、桂川です。ところが、御幸橋たもとに掲げられている
国土交通省の表示は何と書いてあるか。淀川と書かれています。京阪電車から見る表示も淀川で
す。私たちは、三川合流して、そこから先が淀川になると思っています。正確には、まだ合流してい
ない宇治川が、なぜ淀川となっているのか。確認と間違っていたなら、訂正していただきたいと思
います。

② 三川合流地点の表示について

⇒国土交通省の「淀川」の表示が正しいのなら、何をもって合流とするのか。宇治川はどこからが
淀川に変わるのか。きちっとした広報を要請していただきたいと考えていますが、行政サイドの見
解はいかがでしょうかお伺いします。

背 割 堤

御幸橋を渡って、背割堤に着きます。1.4 キロの長い堤防に 250 本のソメイヨシノ、一本一本の見事なこと、大木で個性豊かです。

一本一本に名前をつけたいぐらいです。あれほどスケールの大きい桜並木は、京都のどこにもありません。日本でも有数の名勝に挙げられていい桜並木です。

鳥も豊富です。山鳥、水鳥の種類が多いことが表示されています。それぞれの鳥がどんな声で鳴くのか、聞きたいものです。ボタンを押せば鳥の声を鳴かせることぐらいは、それほど難しいことではないと思います。子どものためにも考えていただきたいと思います。

さて、背割堤に一步入れば、感動の世界が続きます。

ところが、背割堤入り口の表示は、きれいとは言えません。地元の私たちは見なれていますから、気がつかないかもしれませんが、初めて来た人は言います。

入り口の表示が汚いと。駐車場への案内看板はさびだらけ、並べてある地図もわかりにくい。何を伝えようとしているのか。

三川合流を伝えようとしているのだったらそれこそ地図に、ここが宇治川で、ここから淀川を書いてほしいと言います。

さびついている案内看板がどこの管轄になるのか。

市として、勝手に変えることはできないと思いますが、初めて来た人は、八幡市の有名な背割堤の入り口が粗末だったとしか思いません。

よそのお宅を訪問して、玄関が汚れていたらどう思いますか。これが企業だったら、第一印象が悪いと。企業事態の存続にもかかわってきます。看板だけでも、きれいにすべきです。

質問

③ 背割堤の入り口看板について

⇒さくらであい館のデビューにあわせて、この際、関係機関の担当者が集まって、背割堤の入り口はあのままでもいいのか。きれいにするにはどうしたらよいいのか。話し合ってみてはいかがでしょうか。行政の見解をお聞かせください。

施設の利用 観光活性化

先日、我が八幡みらいクラブ、田島議員、奥村議員と私と3人で、東京へ参りました。

1日目が国土交通省都市局公園緑地景観課の担当者に、さくらであい館をつくった目的と今後の活用について伺ってまいりました。さくらであい館の位置づけや内容、今後の活用等については、当初から逐一報告されていたと思います。それを受けて、八幡市の関連部署も必要な対応をしてこられましたから、担当者の説明を聞きながら、特別新しいことを聞いたというようなことはありませんでしたが、国土交通省の担当者は、大変熱心に語ってくれました。今後の活用に関しては、オープンしてしばらくはいいが、その後の活用に関して、若干案じておられました。

2日目は、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部の担当者に、交付金のことを中心に伺ってまいりました。報告とあわせて質問させていただきます。

さくらであい館に関しては、三川合流地域にある河川公園の施設とする前に、地域づくり構想という形でこの地域におけるまちづくりの課題として位置づけています。

三川が重なる地域において、交流する場を設けようということとなっており、地域間交流、周遊促進の拠点づくりです。

国土交通省では、淀川の下流、大阪湾に至るまでの間に、何カ所かの公園をつくる計画を持っているようですが、そのトップバッターが今回のさくらであい館です。

何が何でも成功させて、下流の第2弾、第3弾につなげていきたいと考えておられます。

さくらであい館の説明の中で、強調しておられたことは、展望塔の高さを25メートルにしたことによって、上から見る立場、周りの景観が一望できます。同時にタワーが周囲の景観として見られる立場を考えたときに、この25メートルという高さが最適だそうです。

そして、展望塔の特徴は、御幸橋の八角の親柱をキーにして、京都産木材を活用した設計になっています。こういったタワーは、木曾三川にあるぐらいで、その点を地元でも広報していただきたいと、強調しておられました。

管理棟と呼ばれる施設は伝統的な和風建築で、京都らしさを強調したつもりですと。

これも何度も繰り返しておられました。

ここからは、国土交通省での説明ですが、少しばかり紹介し、それに続いて質問させていただきます。

さくらであい館は、2017年3月25日にオープンし、3月26日が日曜日になりますので、2日間にわたりオープニングイベントを、八幡市の皆さん、関係機関の皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思えます。

この建物については、大きくイベント広場、学習室、情報発信施設が広く活用いただけるスペースになっています。これから大切なのは、さくらであい館ができた後の活用です。

管理運営は、淀川にある淀川河川事務所が担当しますが、今、京都府周辺の自治体の協力をいただきながら、管理運営の準備をして、一体となって進めているところです。

この施設をどう活用していくかについて、今、上がっているプランでは、JAの参画で三川マルシェと題した物販の取り組み、京都府の取り組みでお茶博とあわせて、桜のもとでお茶をいただくイベント、地域特産のスイーツを、ここで味わおうといったイベントの企画、最近では自転車の利用が特に週末に多くなっており、休憩のポイントとして使っていただけること。自転車を持ってここに集まり、ここをスタート時点とし、上流に行ったり、下流に行ったりする展開。

自転車利用者の拠点として認知されると、ここに多くの愛好者が集まってくることも予想できます。

これまでの背割堤地区は、イベントをするにしても、材料や道具類の全てを持ち込まないとできなかったのが、今後はさくらであい館の設備を使って、そのスペースなどで準備などができるので、持ち込みイベントがしやすくなると思います。

ソフト面での連携については、地域の皆さんのお力添えをいただきながら、オープン後は本格的に軌道に乗せていくのが大切だと考えます。常にイベントスペースとしてオープンしておくことで、どなたでも活用していただけます。

イベント以外でも、通年やりたいという事業主が名乗りを上げてくださることが目標です。

大阪と京都伏見を往来した淀川の舟運の復活と活性化の取り組みが進められているところです。

では、国土交通省の説明を踏まえて、何点か質問いたします。

質問

④ やそう地区 公園利用するための設備について。

⇒ さくらであい館のオープンに続いて、八幡市駅側の御幸橋、やそう地区と呼ばれているエリアについても公園利用するための整備に取りかかるということですが、着手時期はいつごろなのか。公園の内部はどうなるのか。例えば散策が主体となるのか。イベント開催に対応できる公園を目指すのか。情報を把握しておられる範囲内でお答えください。

⑤ さくらであい館の利用・企画について。

⇒ さくらであい館の利用について、国土交通省は、八幡市を中心に周辺自治体、各団体を含め、多くの人に積極的に使ってもらいたいと要望しておられます。八幡市として、このように使いたい、こんなイベントを企画しているなど、具体的に進展している計画がどれくらいあるのかお伺いします。

⑥ 自転車の活用推奨について。

⇒ 先ほどの報告の中でも触れましたように、自転車の活用を推奨しておられます。自転車を使ったイベントの企画、周辺自治体を巻き込むようなグッドタイミングな企画はあるのか。

なければ、この際、新たな企画を考えるなり、募集するのも一考に値すると思いますが、お伺いします。

提案

広報についても、積極的に周知、PRを図ってもらいたいと要望しておられます。新しい施設をみんなでも自由に使えることを知らせてほしい。こんなふうに使いたいけど、どうだろうと思うようなことがあれば、どんどん聞いてほしい。実験的な取り組みをしながら、常に場所の取り合いになるぐらいのにぎわいになることが目標だと強調しておられました。広報については、本市の広報紙で特集を組むことなどは、計画しておられると思いますが、この際、印刷物の一新を図るのもわかりやすいと思います。今、提案いたしました背割堤とさくらであい館、駅から歩いていこう、出会いの御幸橋を特集したパンフレットをつくられることを提案します。

政府交付金 質問と答弁

国土交通省の担当者へ伺った翌日は、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部の担当者へ、交付金の概要について伺ってまいりました。

政府は、地方創生版支援策のキャッチフレーズを、三本の矢と称し、情報支援の矢、人的支援の矢、財政支援の矢を掲げています。

財政支援の矢においては、そのうちのひとつである地方財政措置として、まち・ひと・しごと創生事業費として、2016年度も引き続き1兆円が計上されており、そのうちの約6,000億円は人口減少の特別対策事業費として、人口を基本とした取り組みが、自治体の普通交付税の算定に反映されています。

また、地方創生推進交付金においては、内閣官房の担当者の説明では、それぞれの自治体において、まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づけられた自主的、主体的で先導的などんどんどん提出していただいて、審査に合えば交付金を出しますと言っておられました。

そこでお伺いします。

質問

政府の交付金を対象とした事業について。

⇒政府の交付金を対象とした事業を、本市はどれぐらい提出し、事業ベースで幾らほど採択されているのでしょうか？

答弁

平成28年度の地方創生関連の国の交付金事業につきましては、観光まちづくり、スマートウェルネス健康地域づくり、共生社会の実現に向けた施策などを申請し、平成27年度の繰り越し事業分と、平成28年度の事業分を含めまして、7,574万円の交付を受ける予定でございます。

新しい観光スポット 答弁

答弁

① 新しい観光スポットについて。

⇒御幸橋の名は、かつて京の都から石清水八幡宮へ向かい、朝廷の人々が渡ってくる御幸道に由来すると言われております。そうした由緒を持つ御幸橋と石清水八幡宮を関連づけた情報を発信することは可能ではございますが、今後、その工夫が必要であると考えております。

② 三川合流地点の表示について

⇒淀川につきましては、河川法に基づき指定された河川としては琵琶湖から流れ出るところから淀川とされております。国土交通省が淀川を管理する以前は、管理が滋賀県と京都府に分かれておりました。滋賀県域を瀬田川、京都府域を宇治川と呼ばれていたことから、現在もその名残として使用されております。

御幸橋、京阪鉄橋付近の看板につきましては、間違いではないものの、宇治川の名称が親しまれているところでございます。現状は、府道宇治淀線に架かります淀大橋より下流が淀川、上流が宇治川と表示されていますが、その経過は明確でないとお聞きしており、今後は、来訪者にわかりやすい表示をしていただくよう、国土交通省に要望してまいります。

③ 背割堤の入り口看板について

⇒背割堤地区の公園入り口の看板につきましては、淀川河川事務所において、さくらであい館のオープンまでに一部更新されるとお聞きしております。

引き続き、淀川三川合流域地域づくり推進協議会等において、国・府や周辺自治体と連携して、計画的な整備について協議してまいりたいと考えております。

④ やそう地区 公園利用するための設備について。

⇒ 淀川河川事務所では、現在、さくらであい館のオープンに向けて集中的に取り組んでおられ、やそう地区の整備につきましては、国の淀川河川公園上流域地域整備協議会に諮っておられるとのことでございます。

新しい観光スポット 答弁 2

答弁

⑤ さくらであい館の利用・企画について。

⇒ さくらであい館の利用につきましては、三川合流地点の歴史を発信するコーナーと、観光情報発信のコーナーが設置されると伺っております。歴史に関する情報の発信を行うとともに、季節ごとに刊行する広域観光PR誌を配架し、積極的に観光情報を発信していきたいと考えております。

イベントにつきましても、これまで淀川河川事務所の主催で実施されました開館イベント、本市を含め5市3町で構成する淀川三川合流域地域づくり推進協議会として参画してまいりました。今後も関連市町と淀川河川公園管理センターとともに、地域の交流や観光振興に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

市独自のイベントでの活用につきましては、施設内部の設備などの詳細を確認した上で、どのように活用できるか検討していきたいと考えております。

⑥ 自転車の活用推奨について。

⇒ 八幡市には、背割堤、さくらであい館、四季彩館等のほか、自転車での観光

来訪を期待する箇所が多くあります。自転車を利用しての観光は、移動できる範囲が広いことから、八幡市内に留まらず、他市との連携が重要であります。八幡市には、奈良から嵐山までの木津川河川敷を結ぶ自転車道が整備されており、これを活用して周辺観光地を結び、周遊観光するイベントサイクルラインが、京都府山城広域振興局が主催となって行われているところでございます。八幡市といたしましては、このサイクルラインの取り組みに協力してまいりたいと考えているところでございます。

提案 答弁

さくらであい館のパンフレットにつきましては、今後作成予定であります広域観光PR誌の春号に特集記事を設け、情報発信に努めてまいりたいと考えております。

既存の観光パンフレット、淀川河川公園、背割堤地区は、季節ごとの見どころやバーベキューなど、公園利用について紹介するものですが、この内容の更新についても検討してまいります。

観光 振興 再質問

御幸橋の活用につきましては、発信可能だと認めていただいたことに感謝いたします。工夫については、継続的に提案させていただきます。

再質問

① 宇治川がどこから淀川になるのかということですが、来訪者にわかりやすい表示をしていただくよう、国土交通省に要望してまいりますというご答弁をいただきました。淀川表示については、河川法に基づく淀川ですが、三川が合流して淀川なので、やはり住民感情を大切にしたい取り組みを大事にしていきたいと思っています。住民感情では、宇治川です。宇治川なのか淀川なのか、行政としてどう対応されていけるのか。重ねてお伺いします。

② 背割堤入り口については、市としても積極的に要望していただきたいと思えます。この場所については、八幡市も、七夕まつりなどで、大変職員の皆さんも暑い季節の中、活性化のために苦勞された取り組みをされております。また、八幡市の駅前の活性化にもつながっていきますし、八幡市の観光を推進していく上で、大切な拠点になっていきます。そういった意味で、玄関口や入り口はきれいにしていただきたいと思えます。大事にしていきたいと思えます。答弁では、オープンまでに一部更新するというのですが、どういうことなのかということで、さびついた駐車場看板はどうされるのか。市としてどのように要望されるのかお伺いします。

③ 自転車の活用につきましては、八幡市としてはサイクルラインの取り組みに協力していくことでわかりました。

そこでお伺いしたいんですが、国土交通省が八幡市に協力いただきながら、レンタサイクルの乗り捨ての実験を実施しているということを知っております。歩いていくとちょっと距離があるので、移動手段としての自転車の実験もしながら、三川合流域に多くの方が訪れていただいて、三川合流域を訪れた方が、八幡市のまちを散策していただくことで、地域の活性化につなげていけると考えていますが、レンタサイクルの利用の取り組みについては、どのように考えられるのかお伺いします。

④ 交付金に関しては、市も取り組んでいかれるとのご答弁ですが、私が申し上げた観光の取り組みを、内閣官房で聞いた自主的、主体的で先導的な事業として捉え、より積極的な事業として提案していただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

また、今後、八幡市駅前の活性化策を含めた観光の促進において、交付金事業として採択されるような事業を、どのように生み出そうとしているのか。お考えをお伺いします。

観光 振興 再質問答弁

再質問 答弁

- ① 現在、背割堤周辺では、淀川と宇治川の表示が混在している状況ですの
で、背割堤内に設置されております案内板や地図などと整合するよう、できれ
ば宇治川表示で統一していただくよう要望してまいりたいと考えております。
- ② 淀川河川事務所において、今年度内に公園内の駐車場を大型バスが駐車
できるよう整備され、それとあわせて公園入り口正面に設置されております駐車
場の案内看板について、移設を含めて検討されていると伺っております。
- ③ レンタサイクルの取り組みにつきましては、八幡市観光協会が駅前に 35
台、松花堂庭園美術館に5台、四季彩館に5台を配備し、いずれの場所におい
ても貸し出しと返却が可能となっております。さらなる利用の促進の取り組みと
いたしまして、11月1日からスタンプカードを発行し、5回ご利用いただくと、観
光協会の会員店で利用できる500円の金券を進呈し、リピーターの増加に取り
組んでいるところでございます。

また、広域的な取り組みといたしましては、国土交通省淀川河川事務所を中心
に、大山崎町と八幡市の間で、乗り捨て型レンタサイクル事業の検討をされて
いるところでございまして、今後、事業の制度設計を進められると聞いておりま
す。
- ④ 現 在、八幡市駅前整備等観光まちづくり構想の策定に向け、検討している
ところでございます。その議論の中で出されております課題といたしましては、
観光客の知的欲求、本物志向、好奇心を満足させるための歴史的、文化的な
付加価値の提供、駅前整備を含め、観光客がリラックスしたい交流できる場の
創出、さらには観光のまちづくりを総合的かつ継続的に運営していく組織の検
討などが挙げられます。それぞれの課題に即した事業を、年度内を目途につく
り上げるグラウンドコンセントの中でそれを連携させて、交付条件がクリアでき
るような事業を検討してまいりたいと考えております。

光輝くスポット

取り組む課題

さくらであい館

観光 振興 要望

御幸橋野草エリアについては、協議会に諮っておられるとのことですが、さくらであい館がオープンしますと、背割堤地区全てが開園していますので、いよいよ八幡市駅側の御幸橋野草地区と呼ばれているエリアについても、公園利用を促進するための整備に取り組んでいただきたいと思います。

構想については、国土交通省のホームページには載っていましたが、着手時期は明確に決まっていないと思いますが、ポイントになるのは、ここは豊かな自然がある部分なので、散策をしていただく沿道とか、みんなが広く使える多目的広場や、その近くに駐車場を設けるということで、いろいろな人がここでイベントを開催していただけたと思います。

八幡市としても積極的にかかわっていただきますように、よろしくお願いいたします。

要望とさせていただきます。

次に、さくらであい館の利用につきましては、この施設をどう活用していくか。

この地域の連携という面では、ここを使うことで地域間の連携が深まるというような連携イベントができればいいと思いますし、国営公園ということで、そういう施設なので、ほかの地域に負けないような八幡市の観光PRをここでしてほしいと思います。

また、桜並木の背割堤は、4月のシーズンに20万人ぐらいの人が訪れ、年間およそ40万人ですから、年間の半分が桜シーズンに集中しているのが、さくらであい館ができることで、年間を通して訪れる人のふえることを期待しております。